

○令和元年度第1回つくばみらい市総合教育会議

- 1 日時 令和2年2月21日（金）午後4時00分から
- 2 場所 つくばみらい市役所教育委員会庁舎 2階 会議室
- 3 出席委員 つくばみらい市長 小田川 浩
 教育長 福田 敏男
 教育長職務代理者 中島 正志
 委員 久下 伸子
 委員 高橋 秀光
 委員 安河内 崇代
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席職員 教育部長 吉田 弘之
 学校総務課課長補佐 大澤 勝彦
 適正配置推進室長 石引 智宏
 教育指導課長 長塚 和徳
 教育指導課副参事 中島 嘉之
 教育指導課課長補佐 直井 仁志
 生涯学習課課長補佐 千葉 裕康
 文化振興室主査 成島 紀晶
 図書館長補佐 広瀬 実
 学校総務課主幹 尾林 大悟
- 6 傍聴人 なし
- 7 協議・調整事項 (1) 教育施設の適正配置について
 (2) 市教育大綱及び市教育振興基本計画の見直しについて
- 8 議事

事務局 市長	【令和元年度第1回つくばみらい市総合教育会議開会宣言】 【あいさつ】
事務局	(1) 教育施設の適正配置について 【事務局より教育施設の適正配置について説明】
市長 委員	・適正配置の目的について ・義務教育施設適正配置審議会及び学区審議会の経緯と主な審議内容について ・審議会からの最終答申内容について ・義務教育施設適正配置再検討計画書の策定について 質疑を諮る 児童数が将来的にまだ多くなるか、ある程度のところで留まるのか、予測がつかない状況にあると思いますが、富士見ヶ丘小学校区はまだまだ増えてくるように思います。今後の児童数の増加にどのように対応していくのか。一方で既存の学校では、減少傾向となっているが通学区の区割りの見

事務局	<p>直しも含めて、児童生徒の増減に対応することが出来るのかどうか。また、子どもたちが少ない場合と多すぎる場合でそれぞれどのような問題があるのか。ねらいとする教育に関して十分な対応が出来るのかどうか。いろいろな角度から見ていかななくてはならないと考えますが今後どのように対応していく方向なのか、お聞きしたい。</p> <p>学区については、具体的な統合の組み合わせや通学区について、実際の保護者の方々のご意見をいただきながら、来年度以降、審議会で協議して、原案を作成していきたい。答申書の付帯意見の中でも学区に関しては、ある程度、弾力的な運用を行っていくこととしております。</p> <p>学校規模が大きすぎることによるメリットについては、いろいろな子どもたちがいることによって競争意識やいろんな意見や考え方に触れることができる。一方で特別教室やプール、体育館などの使用に制限が出てしまうというデメリットもあるので、大きすぎることも問題であるという認識を審議会でも共有してもらっている。</p> <p>子どもたちが少なすぎる場合、メリットとしてよく先生に見てもらえることが考えられる。教育の幅、指導の幅はどうしても限定されてしまうことが子どもたちへの直接的影響としてデメリットとなるという意見が審議会の中でもありました。</p>
委員	<p>学校の跡地利用についてもある程度考えていかなければならない。例えば、市の資料館がどこかにあったほうがいいのか、公民館が今のままでいいのか等、小学校の跡地利用の構想についても持ち始めないといけないと思います。来年度、東小、三島小が幼稚園として生まれ変わりますが、これがいつまで続くものなのか。いろいろなことを含めて将来の学校のあり方を、そんなに先でなくとも5年先とかでいいと思うので見通しておくべきかと思えます。</p>
市長	<p>当然まちづくりとして考えていかなければいけない。適正配置と跡地利用は同時並行でやっていかなければいけないと思っております。小学校の数は将来は減っていく方向ですが、行政としてはまちづくりとして人口を増やそうとする施策を打ち出しています。そこは相反するところではあります。適正配置をしなければいけないという現実があり、本来であれば適正配置は行わないことが理想なので、何とかこの適正配置を遅らせるような努力を我々はしなければならぬと考えてます。</p>
委員	<p>これから学校に入学する子どもたちの保護者、あるいは在学中の保護者の心配として、「いつ統合になるのか」という声をよく聞きます。そのあたりの見通しがどうなのか、なかなか掴みきれないところがあると思うが、そのような保護者たちの不安をある程度和らげるような情報の発信を保護者へ行っていった方がいいと思います。</p>
教育長	<p>やはり、学校でも同じですが、信頼される学校づくりを考えた場合に、情報発信は非常に大切だと思っております。また、説明責任も重要で誠意を持</p>

事務局	<p>って応えていく必要があると思っており、その二つによって地域や保護者から信頼される教育委員会や市になってくるかと思うのでこれからも大事にしていきたい。</p> <p>統合の見通しについて、来年度、保護者との意見交換を行っていく中で、学校の再編の組み合わせや時期など、具体的な意見をいただければいいと思っています。ただ、それらの意見がそのまま計画に載るかどうかは、まちづくりの観点もあるので市長部局とも連携を図りながら、計画書の中に入れていきたい。</p>
市長	<p>今回、板橋、谷井田の統合において、校名もそうだが、納得しない方々もいた。見えない部分も当然ありましたが行政側が説明会をやったという認識はあっても、「受けていない」という認識もあった。反対の意見もあって当然という考え方でなく、全員を納得させるんだという気持ちでやっていかないと地域の方々に伝わらない。今回はこれを教訓として今後も教育委員会と市長部局でまちづくりという観点からも連携し合っていくことが重要と考えております。</p>
委員	<p>適正配置においては、総論では賛成だが各論になるとなかなか難しいことが出てきたかと思えます。ここまで持ってくるには大変なご苦労があったかと思えますが、ここからがスタートでもあります。そのような中、スクールカウンセラーを配置していただき、子どもたちへのケアはとてもしっかり施策だと思えました。統合して大変良かったとなるようにこれからもよろしくをお願いします。また、適正配置の再検討計画書の策定にあたっては、パブリックコメントで意見交換等をしていくこともとてもいいこと。時間は掛かると思いますが皆さん一人ひとりの意見を大切にするという地道な取組が大切かと思えますので今後ともよろしくをお願いします。</p>
委員	<p>難しい問題であると思えます。学校に期待されているものが大きすぎて、家庭教育や文化であったり、個々で言えばお茶作りや綱火など、地域と密着している小規模校がこれからどうなるのか、地域の方が不安になっていたり、合理的に考えていらしやる方もいたり、みなさん、いろいろな思いがあると思うので、まちづくりも絡めていくために横の連携が必要だと非常に感じております。また、市内の体育館について、生涯学習課の分野になりますが、スポーツ施設として学校の体育館が多く使われており、練習場所がなかなか取れないという状況もある。それも含めて跡地利用の検討も必要かと思えます。</p>
事務局	<p>工夫していることとしまして、事務局では市民への周知、特にホームページも見やすいようにバナーを設けたり、適正配置便りを只今 16 号まできておりますが、ほぼ毎月広報へ掲載している。新年度も引続きしっかりと市民説明を行っていきます。</p>
市長	<p>それでは、「教育施設の適正配置について」は報告案件ですのでご了承願います。続きまして「市教育大綱及び市教育振興基本計画の見直しについて」</p>

事務局	事務局より説明をお願いします。 【事務局より市教育大綱及び市教育振興基本計画の見直しについて説明】
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育大綱の概要について ・教育振興基本計画の概要について ・大綱及び計画の今後の見直し計画について
事務局	実情を見ながら状況に対応していくということからすると、本市の教育において大きな課題となっている適正配置の問題が子どもたちの教育の手厚さに繋がると思うのでこの大綱へ織り込んでいければと思っております。
教育長	小学校では、来年度から、中学校は令和 3 年度から新学習指導要領が全面実施となります。小学校ではプログラミング教育が入ってきたり、英語が教科化になったり、前回の学習指導要領から大幅に変わってきます。今の教育大綱は以前の学習指導要領に沿ったものであるので新学習指導要領を鑑みながら見直しを行っていきます。
委員	学力についても考え方がだいぶ変わってきています。学力として身に付いた知識をどう生活の中で活かしていくかとか、何が出来るようになるかというのが大きな学力の捉え方の一つかと思うので、そういったところも入れていかなければいけないと思っています。1人で学ぶというより対話的というのも出てきています。集団の中で協調性を持ちながら何かを作り上げるようなことも取り組んでいく必要があると思います。
委員	基本理念にある一人ひとりの輝く“みらい”を家庭・学校・地域で育む豊かな教育の推進のなかで、一人ひとりを大切にするというのはとても大事なことです。新しいものが出てきたとしても、大事なものは捨てたくない。そんな中、未来を切り開いていくのですが、家庭・学校・地域で連携していくことは非常に難しいことですがとても大事だと思っています。また、教育振興基本計画の資料で 119 ページ、保護者のアンケートの中で親が学校教育において最も重要と考えているものは、小中学校とも学力の向上といじめ・暴力の無い学校を望んでいるが、それと同時に家庭教育の大切さも忘れずに重視していく必要があるかと思う。
事務局	お子さんの教育の場を市外に求めている方、小学校から市外に通われている方はどのくらいいるのか。私立の小学校、中学校に行かれていますか。
市長	小学校を卒業し私立中学校に行かれる方は十数名毎年いるが、小学校から私立にいらっしゃる方については把握しておりません。
事務局	基本目標があってそれぞれに重点施策があるが、これらの評価は行っているのか。
市長	評価は実施しています。
事務局	実績として例えば、いじめ、不登校が今年は何人になったとか出していますか。
事務局	具体的なものではなく、この施策に基づいた事業の実施計画的なもので毎年見直しを行っている。

市長	例えばいじめ・不登校プロジェクトとあるが、事業はどんなものがあるのか。
事務局	事業としては、教育相談事業として、なのはなの教育相談があります。相談件数や児童数等を出しているが授業を重ねていけば必ずしも不登校が減るといってもいいです。
市長	毎年、結果をデータで出していき、目に見える形で委員の皆さんへお示した方が分かりやすいと思う。来年度の見直しの中でもこういったともろも含めて検討していただきたい。
委員	一説ではあるが、今の子どもたちの65%は将来、今存在しない職業に就くという考え方や約47%の仕事が自動化してしまうという将来像がある程度浮かび上がっている。そんな中、子どもたちにどういった教育を与えていくのか。というのもとても大切かと思えます。当市は英語教育に大変熱心であることが、私はよかったと思っています。ただ、英語はあくまでも伝達手段であり、その先に、自分の追及できるような世界に繋がっていないと手段にばかり気持ちがいってしまう。今の教育に対する教師のあり方が非常に問われている。もちろん英語で表現できる力も大事だが、表現できるだけにとどまらないよう、その先も見据えて、せつかく外国の先生方がそれぞれの幼稚園から中学校まで配備されているので、そのような教育の方針を一つ立てていただきたいと思う。自分自身を認識して自分の人生を選択して表現できる力、そしてそこに英語の力がしっかり加わるような当市の教育を大きく望みます。
事務局	県の調査ですが、タブレットを使って中学生に英語のヒアリングを行いました。当市はヒアリングの能力が高く、英語教育に力を入れているというのは県南教育事務所でも高い評価をいただいております。また、今年度、小学校でアンケートを行い、英語の授業の満足度は90%以上で非常に高い状況です。しかし、将来、外国語を使った仕事に就きたいと思っている子については極めて低くなってしまいます。何のために英語を使うのか、教員のほうから改革を行っていかないと本当に楽しいだけで終わってしまう。当課としても教員の意識改革をまず行っていないと子どもたちの意識改革に繋がらないと思っています。
教育長	やはり、キャリア教育と関連付けてやっていかないといけないかもしれない。
事務局	このあとも、全校の調査結果について、学校別と学年別でさらに細かく分析を行っていきます。
市長	議題としては、この大綱と基本計画を見直すことについてですが、見直すということでご異議ありませんでしょうか。
全委員	異議なし。
市長	それでは、「市教育大綱及び市教育振興基本計画の見直しについて」原案のとおり承認します。

事務局	その他について、委員の方から意見はございますか。無いようでしたら、事務局にお戻しいたします。 【令和元年度第1回つくばみらい市総合教育会議閉会宣言】
-----	---

上記決議を明確にするため、本議事録を作成する。

令和2年2月21日

市長 小田川 浩
教育長 福田 敏男